

平成29年度事業別評価調書（チェックリスト）

整理番号	108	事業名	交付金事業（街路）	補助 単独	地区名 （事業箇所名）	東部幹線外1線 （久保田工区）	関係 市町村名	郡山市	担当部（局） 課名	土木部 まちづくり推進課	
評価の対象となる理由	第1項第5号：計画変更を行おうとする事業				前回（平成26年度）評価時の対応方針	委員会からの提言： 事業継続 付帯意見： -			県の対応方針： 事業継続		
事業根拠法・要綱等の名称	都市計画法第59条										
事業の概要	[事業目的及び全体計画] (1) 事業目的 郡山市の街路事業（（都）東部幹線富久山工区、桜木工区）及び伊賀河原（いがわら）土地 区画整理事業と連携し、うねめ通りから国道288号（三春街道入口交差点）に抜ける4車線のバイ パス道路を整備することにより、JR第1越後街道踏切（県道荒井郡山線）や若葉町交差点 （県道郡山大越線）の慢性的な渋滞の解消と平成29年4月に開業したJR郡山富田駅へのアク セス強化を図る。 (2) 全体計画 事業認可取得：平成16年12月20日 延 長：東部幹線L=420m 荒井郡山線L=470m 幅 員：W=13.0(27.0)m					[] は事業採択時 < > は前回評価時					
	事業の採択年度	H16	完成目標年度 ※	[H22] <H29> H32	用地着手年度	H17	工事着手年度	H22			
	事業費 （百万円）	全体事業費 （うち用地費）	これまでの 投資事業費 合計	左の財源内訳又 は負担割合	これまでの年度別投資実績（29年度は見込額である。） ～26年度 27年度 28年度 29年度						
		6,000 (4,218)	5,381 (3,916)	国 3,082 県 2,030 市町村 269 その他	5,351 (3,916)	1 (0)	29 (0)	5 (0)			
進捗率	事業費ベース	89.7%	用地費ベース	92.8%	その他 () %						
事業の進捗状況	[整備の状況] 平成25年12月27日に荒井郡山線を暫定供用。 [事業実施上の課題や問題点、今後の事業見通し] 久保田工区は隣接する水神山工区一体的に整備しなければバイパスとしての効果を発揮しないた め、隣接工区と進捗調整する必要がある。 今回、水神山工区の用地交渉に時間を要したが、用地取得の目処がついたため、事業期間を延長 し、水神山工区と併せて平成32年度の供用を目指す。 [関連事業の進捗状況] ①東部幹線（水神山）：83%（平成28年度末） ②郡山市事業（東部幹線）：63%、伊賀河原土地区画整理事業：83%（平成28年度末）										
	みなし進捗率=(B)/(A)=117.3% > 70.0% 投資済み事業費(B)=5,381(百万円)										
	みなし事業費(A)=全体事業費6,000×経過年数13年 = 4,588(百万円) (全体工期17年)										
評価					A、 B、 C						
評価					A、 B、 C						

[事業に関する社会経済情勢]（特記すべき事項）
 (1) 現在の状況
 ・JR第1越後街道踏切（県道荒井郡山線）や若葉町交差点（県道郡山大越線）の慢性的な渋滞の
 解消を図るため、早期の事業完了が必要である。
 (2) 変化の有無 有・無
 (3) 変化の内容
 (4) 地域の協力体制等
 ・事業に対する合意形成がなされ、用地の協力も得られている。

[事業に関連する評価指標等]
 (1) 主要な評価指標の変化

評価指標 （算式）	事業採択時(H16)		今回評価時(H29)		増減(+/-)	備考
	現況	完成時	現況	完成時		
幅員	-	13.0(27.0)m	-	13.0(27.0)m	増減なし	
延長	-	890.0m	-	890.0m	増減なし	

(2) その他特記すべき事項
 ・計画交通量(H42) 25,800台/日
 （バイパスのため現況交通量無し）
 ・バイパス整備により中心市街地までの約5分の所要時間短縮が見込まれる。

[環境への影響等]
 希少野生動植物の情報に基づく対応 実施・未実施（非該当）

- (1) 環境への影響内容とその対策
 ・特になし
- (2) その他特記すべき事項
 ・特になし

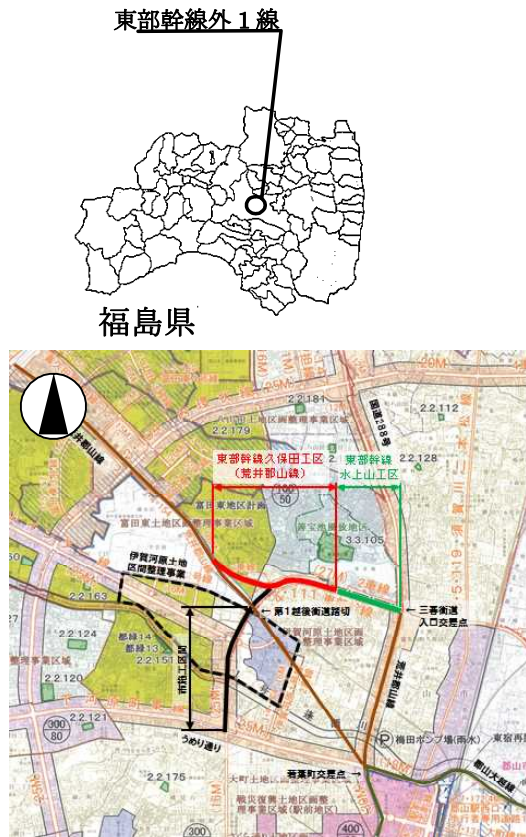
※完成目標年度は、標準的な工程を想定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したもではない。

平成 29 年度事業別評価調書 (チェックリスト)

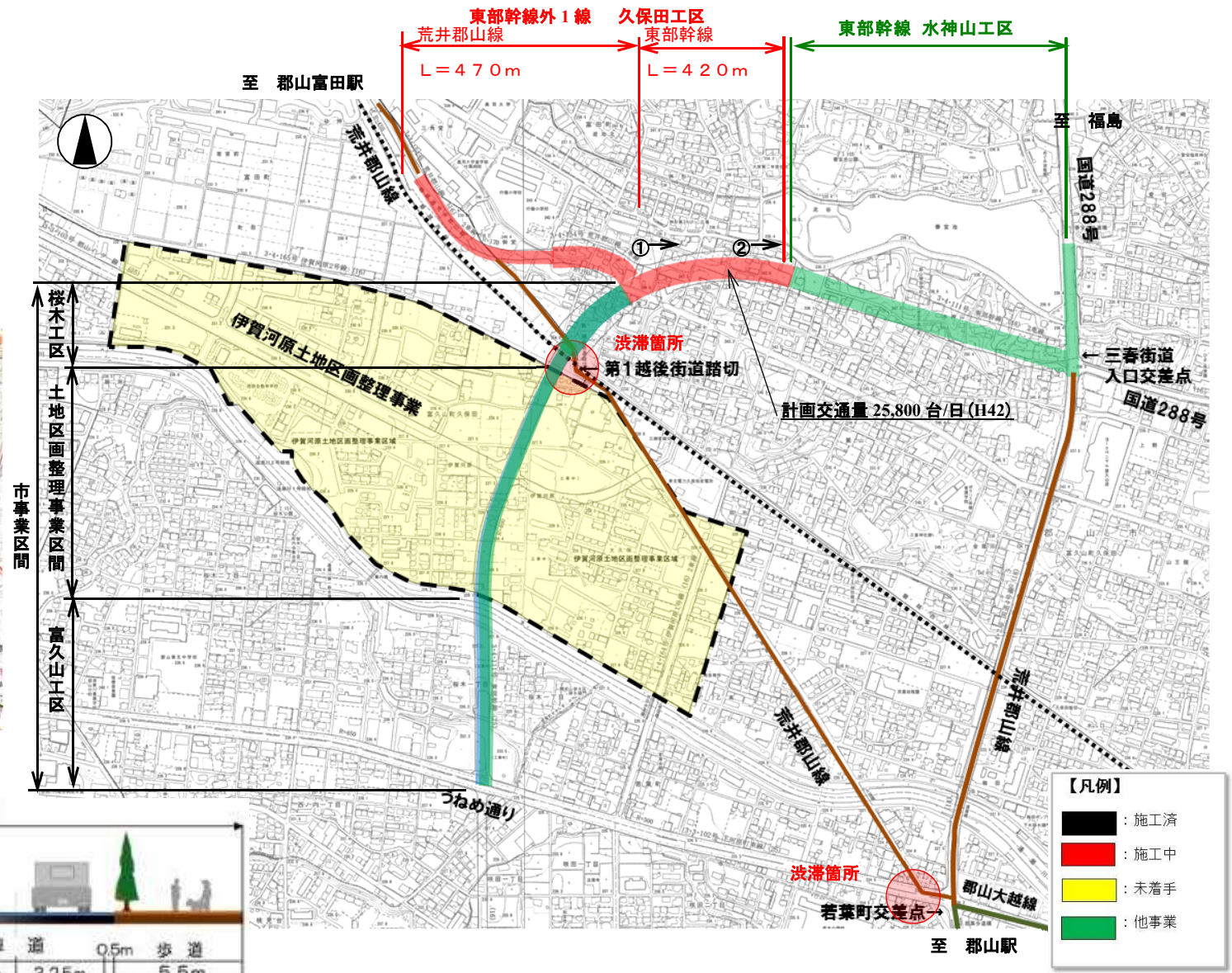
地 元 住 民 ・ 受 益 対 象 者 及 び 関 係 機 関 の 意 向	【地元住民・受益対象者の意向】 (1) 事業採択時の状況 ・ JR 第 1 越後街道踏切 (県道荒井郡山線) や若葉町交差点 (県道郡山大越線) の慢性的な渋滞が続いており、地元住民より新たなバイパスの早期整備が求められていた。 (2) 評価実施時の状況 ・ 周辺道路の渋滞は解消しておらず、引き続き地元住民から事業の早期完成を要望されている。 【関係機関・団体の意向】 (1) 事業採択時の状況 ・ 郡山地域道路整備促進期成同盟会、郡山商工会議所から県・市議会議員に要望書が提出されている。 (2) 評価実施時の状況 ・ 周辺道路の渋滞は解消しておらず、引き続き郡山地域道路整備促進期成同盟会、郡山商工会議所から、事業の早期完成を要望されている。	計 画 変 更 の 必 要 性 ・ コ ス ト 縮 減 や 代 替 案 立 案 等 可 性	【計画変更の必要性】 (1) 必要性の有無 有 ・ 無 (2) 計画変更の理由及び内容 ・ 久保田工区は隣接する水神山工区と一体的に整備しなければ、バイパス整備の効果を十分に発揮しないため、隣接工区と進度調整する必要がある。今回、水神山工区で用地交渉に時間を要したが、用地取得の目処がついたため、水神山工区と併せの供用を目指し完成目標年度を平成 29 年度から平成 32 年度に変更する。 【コスト縮減の取組等 (特記すべき事項)】 ・ 再生アスファルト合材・再生路盤材の利用 【代替案立案の可能性】 ・ 事業の進捗状況を踏まえると、線形変更等の代替案の可能性はない。				
	評 価 A、 B、 C	評 価 A、 B、 C					
費 用 対 効 果 分 析 等 の 要 因 の 変 化	【費用対効果分析等】 (1) 手 法 ・ 「費用便益分析マニュアル」 (平成 20 年 11 月国土交通省道路局 都市・地域整備局) (2) 費用対効果の変化 [前回評価時] [今回評価時] $B/C = \frac{212.06+53.21+15.60 \text{ 億円}}{130.22+0.68 \text{ 億円}} = 2.15 (\geq 1.0)$ $B/C = \frac{197.47+49.51+14.55 \text{ 億円}}{144.18+0.63 \text{ 億円}} = 1.81 (\geq 1.0)$ B : (走行時間短縮、走行経費減少、交通事故減少の便益) C : (道路整備、維持管理に要する事業費) ※B、Cの算出にあたって、久保田工区のみでは算出が困難なため事業中の東部幹線として算出を行っており、事業の概要の事業費とは一致していない。 【費用の変化等で特記すべき事項】 ・ 特になし 【需要効果の変化等で特記すべき事項】 ・ 特になし	総 合 評 価	【総合評価と対応方針案】 (1) 総合評価 平成 29 年 4 月に開業した JR 郡山富田駅へのアクセス強化と、JR 第 1 越後街道踏切 (県道荒井郡山線) や若葉町交差点 (県道郡山大越線) の渋滞解消のため、地元より早期の整備を望まれていることから、完成年度を延長し整備を進める必要がある。 (2) 対応方針及び今後の事業の進め方 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width:20%; padding: 5px;">対応方針案</td> <td style="padding: 5px;">見直し継続</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">今後の事業の進め方</td> <td style="padding: 5px;">計画的な投資により、事業を推進する。</td> </tr> </table> (3) 事業見直し継続、休止、中止する場合の対応 <div style="border: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 10px;"></div>	対応方針案	見直し継続	今後の事業の進め方	計画的な投資により、事業を推進する。
	対応方針案	見直し継続					
今後の事業の進め方	計画的な投資により、事業を推進する。						
評 価 A、 B、 C	評 価 A、 B、 C						

平成29年度事業別評価調書 (チェックリスト)

[位置図] 及び [事業概要図]



標準横断面
道路幅員 27.0m



費用対効果分析について（説明資料）（B/C算出根拠資料①）

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他の別
(都) 東部幹線 久保田工区外1線	交付金事業(街路)	(L=2.3km) L=0.89km	改築	BP

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
25,800	4	福島県

① 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成29年度		
単純合計	128.53億円	1.70億円	130.23億円
基準年における 現在価値(C)	144.18億円	0.63億円	144.81億円

② 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成29年度			
供用年※	平成34年度			
単年便益 (初年便益)	11.92億円	2.99億円	0.88億円	15.80億円
基準年における 現在価値(B)	197.47億円	49.51億円	14.55億円	261.53億円

③ 結果

費用便益比(事業全体)	1.81
-------------	------

※供用年は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。